No.	１６-１-１	場所	豊丘村神稲
名称	①堤防決壊に備え対応する住民 ②川に聖牛を入れる消防団と住民		
災害現象	堤防決壊		
補足事項			

次世代への継承キーワード
災害現象理解

河川	天竜川本川
支流	

概要

本来は梅雨の盛りのはずだが、田植えどころか水田の代かきもできないほど、春先からの少雨で水枯れの状態が続いた１９６１年（昭和３６年）６月。ところが、２３日夜から降り出した雨は「お湿り」どころか徐々に勢いを増し、下伊那郡豊丘村でも雨水を吸い込んだ山肌の土砂が部分的に大きな被害をもたらした。

中でも、県道伊那生田飯田線から４キロほど東側の山あいにあった河野地区の二丁集落では、２７日午後の山崩れをきっかけに電灯が消え、村からの情報も途絶えた。土砂交じりで濁流と化した間沢川は、一晩の間に農地を根こそぎ飲み込み、川べりの幹線道路を全てえぐり取ってしまった。

●体験談：△△

荒れ狂う天竜川の濁流に襲われ怒涛の中に呑み込まれて行った伴野新田三十八ヘクタール余の水田と、二十七戸に及ぶ家屋家財の流失を始め、山崩れの土石流により、跡形もない伴野神社社殿の倒壊と埋没、舞坂地籍の山崩れは古瀬宮地地区を襲い、土石流に呑まれて尊い一人の人命を失い、多くの怪我人と家屋の倒壊、慈恩院本堂への土石流入等、大きな災害を残して行きました。

（「豊丘村　三六災害」より）

記録

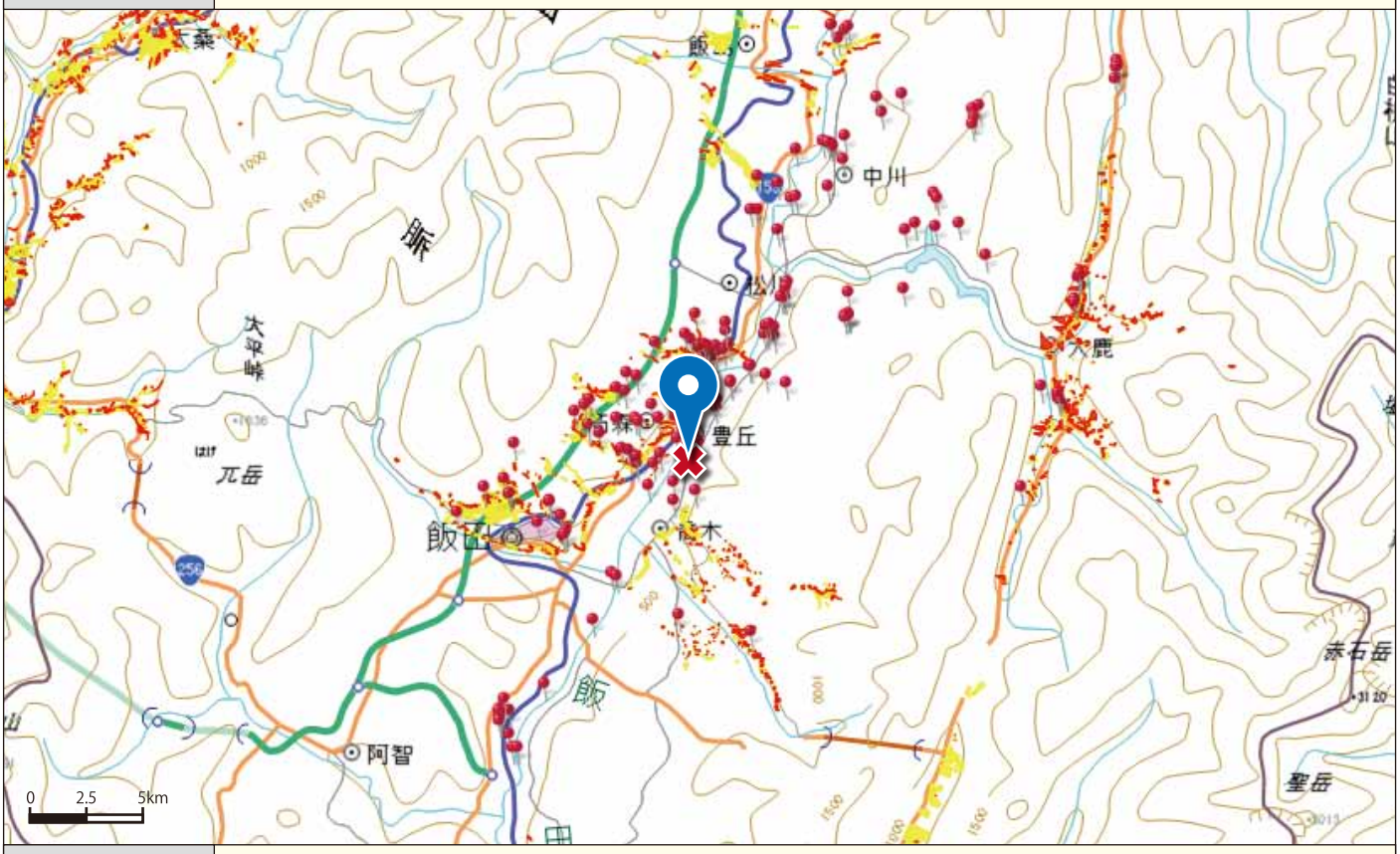
浸水した水を流さないよう細心の注意を払って家からかきだしいている様子

消防団と地元の人たちで聖牛を入れている様子

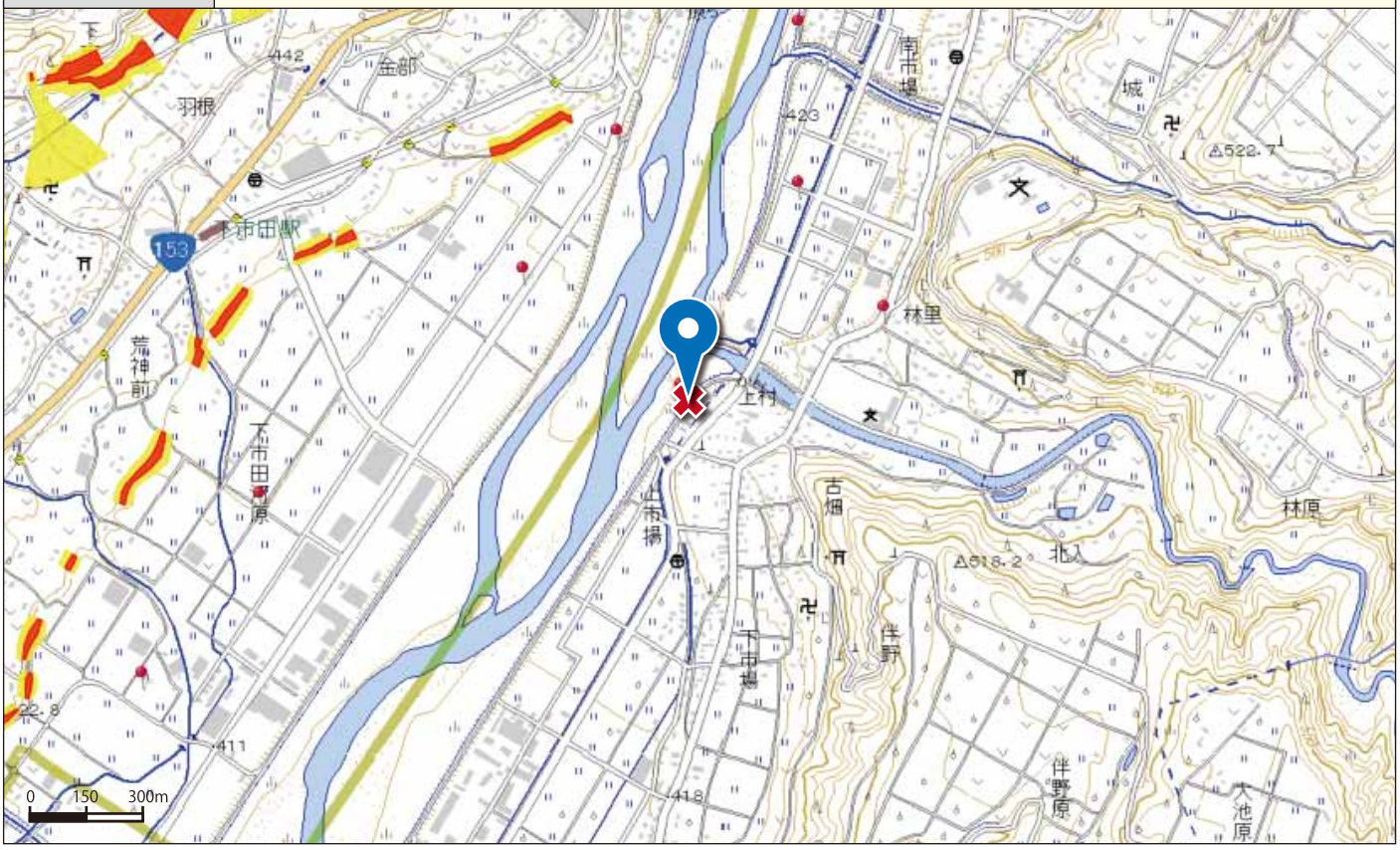
出典	「天竜川のあの頃」p.176、184/「豊丘村 三六災害」p.104
備考	

No.	16-1-1	場所	豊丘村神稲	緯度	35.540496
名称	①堤防決壊に備え対応する住民 ②川に聖牛を入れる消防団と住民			経度	137.888685

地図　広域図



地図　詳細図



備考	上記地図に表示されている、黄色の区域は「土砂災害警戒区域」（通称：イエローゾーン）といい、土砂災害のおそれがある区域を指します。また、赤色の区域は、「土砂災害特別警戒区域」（通用：レッドゾーン）といい、土砂災害警戒区域のうち、建築物に損壊が生じ、住民に著しい危害が生じるおそれがある区域を指します。